

旭混声
合唱団
広 報

楽 楽
Raku-Raku

No. 143
発行／広報係
担当：伊東

《練習日程》

月 日		会 場	時 間	備 考
2008年 1月	5日(土)	新 年 会		
	12日(土)	旭丘公民館	19:00~21:00	
	19日(土)	//	//	
	27日(日)	//	//	
2月	2日(土)	//	//	
	9日(土)	//	//	
	16日(土)	//	//	
	23日(土)	//	//	
3月	1日(土)	//	//	
	2日(日)	公民館まつり 《詳細別途》 旭丘公民館にて直前練習 10:00~12:00		
	8日(土)	旭丘公民館	19:00~21:00	
	15日(土)	中央公民館 勤労青少年ホーム 軽音楽室	//	
	22日(土)	旭丘公民館	//	
	29日(土)	//	//	

実行委員会からご報告

12/1 ステージ構成について話し合いました。今後下記案を元に検討し、詳細を決めていきます。

特に2ステについては、他ステとは衣装も変えて、また、小道具・楽器を使用すること考えています。おもしろ案、意見のある方はどしどし発言しよう！

- 《案》
1. オープニング 団歌
 2. 第1ステージ アカペラの外国曲（宗教曲）・・・フォーマルな雰囲気で
 3. 第2ステージ 「美ら島のうた」より・・・明るく爽やかな雰囲気
休憩
 4. 第3ステージ 「旅のかなたに」・・・格調高い雰囲気
 5. アンコール

プログラムは、A32つ折・4P・2色刷りの簡易型を検討中です。

新入団員紹介

アルト前川久美子さん 11月より入団
アルトがソプラノの人数を追い越しました！（最新の名簿による）

【音楽豆辞典】

★アントン・ブルックナー (Anton Bruckner 1824－1896)

幼くして父親を亡くしたため、子供時代から聖フローリアン教会で育ち、修道士達から音楽を習ったので、オルガン音楽の心得は非常に早かった。成人してからもこの教会でオルガニストとして働いたが、オーケストラ音楽への憧憬が断ち切れず、仕事を辞した。1865年、ミュンヘンで聴いた「トリスタンとイゾルデ」に大きな感銘を受け、職業としての作曲家を志すようになった。40歳を過ぎてからであった。その代表作である交響曲には、決して派手さはないが、ほとんどが長大で、その分厚い重厚な響き、対位法や構築の堅実さには、敬虔なカトリックであったこと、教会音楽家としての下積みが長かったこと、そして子供のように純真で素朴な性格であったことなどがにじみ出ている。しかし、そのような交響曲も当時はなかなか真価が認められず、さらには、ワーグナー派として扱われる都合上、ブラームス派のハンスリックなどから執拗な攻撃を受けた。演奏会を開くことさえ困難なこともあったという。ようやく認められたのは後期の交響曲第7番以降であった。既に60歳になっていた。しかし、マーラーに代表される後の作曲家には大いに尊敬され、大きい影響を与えた。ウィーンで行われた彼の葬儀にはブラームス本人が隠れて涙していたというエピソードも残っている。

<合唱曲>ブルックナーの残した宗教合唱曲には、3つのミサ曲や『テ・デウム』などの大規模なものも含まれ、とりわけ『テ・デウム』は古今の宗教音楽作品の中でも、傑作の1つとして高い評価を得ている。モテットには『アヴェ・マリア』、『これこそ大祭司なり』、『この場所は神が作り給いぬ』、『エサイの枝は芽を出し』、『王の御旗は翻る』などが残されている。他の宗教合唱曲は、『詩篇150篇』のような傑作もある。 ※「テ・デウム」は、ラテン語で「天主よ、われら御身を讃え」という意味で歌詞の冒頭を取って名付けられた教会歌です (S・A・T・B独唱、混声4部合唱、オーケストラによる演奏)。

(参考資料:インターネット掲載サイトより)

<参考音源>

Anton Bruckner 4.Graduale —Locus iste a Deo factus est
この場所は神が作り給いぬ (Locus Iste)WAB.23(1869)[混声4部 chol]
<http://jp.youtube.com/watch?v=iSC5Kjq4aIw>

Anton Bruckner 1.Ave Maria へ長調 WAB.6(1861)[混声7部 chol]
<http://jp.youtube.com/watch?v=-4yb-8o5BKE>

※上記のサイトには、他にも複数の演奏があります。

(文責:酒井)